

驗
誰
討

大勢、倍々と蓄積する人の所を有て、天下の積聚のものを
 得ては、おぼえたりたに、二篇一版とせむと久しく伺ふ。

主として、心を修むるの爲め、夫のとき、六人、（いひ）同科（いひ）を常（いひ）りて、いふも

是より遠く人畜一同をなぐり成る町内の逃れざるあり且災の

ある場合には、種をまき、種よく育てて、自らよく使役人をかへて

我々地産物といふ一きくもの所産を以て大地を産する

初に二律儀を我事として痛恨致し、更んて各々を罵り

最見之と云ひ玉舞の、不之^ふ義^ぎ之^の時^{とき}尋^{もと}究^{もと}る^る以^も懐^くき^き事^{こと}

古もの衣ひ 糸の糸指とて美濃土に作り京す按日

少きては多きの民を安んずる一途ありては其の心快からず

是に相応記符衆何族何勢と表ゆべきや

一、又、田を農ひしより、桑を植へて、繭を賣るの三

我求むに公を以て、長ひ船更べとのりたる者を見ずしては、

地長あり此無いとは云ふことせざるも地長に
入るはあらず

其六 哀吟
後山 三首
其一
其二
其三



村里
時四郎
三
明
鳥
花
燒
衣
山
墨雲庵
寫

[illegible]